

3 研究の基本的な考え方

(1) 研究主題の捉え方

ア 「自分の考えを互いに分かりやすく伝え合う」とは

自分の考えを広げたり深めたりするために、互いの考えとその理由を理解し、それらを踏まえて、自分の考えやその理由を見つめ直して表現すること

自分の考えを広げたり深めたりする（資料4上段）ためには、互いに分かりやすく伝え合うことが大切である。互いに分かりやすく伝え合うためには、相手意識や目的意識をもち、他者に伝わるように自分の考えとその理由までを表現することが必要である。また、他者の考えを理解するために、自分の考えと比べながら他者の考えを受け止めることが必要である。

【資料4 考えの広がりや深まり（上段）と考えの変容の種類（下段）】

考えを広げる	考えを深める
多角的・多面的な視点から自分の考えを見つめ直し、自分の考えに付加したり、修正したりすること	同じ視点から自分の考えを見つめ直し、自分の考えを強固にすること
強固	他者の考えを聞いて、自分の考えに自信をもつこと
付加	自分の考えに他者の考えを付け加えること
修正	他者の考えを聞いて、自分の考えを変えること

イ 「複式学級のよさを生かした指導」とは

複式学級の特徴を生かし、そのメリットを最大限活用した指導

複式学級の特徴は、異学年集団（学年差がある子供同士の集団）で学習することと、少人数集団（子供が16人以下の集団）で学習することの二つが挙げられ、それぞれメリット、デメリットがある（大島の教育pamphlet5参照）。複式学級では、そのメリットを最大限生かし、子供の実態に応じた指導を行うことが大切である。

そこで、本校では、そのメリットを生かした指導を複式学級のよさを生かした指導として、次のように捉えた。

- あ 子供の主体的な学習を促す指導
- い 同学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導
- う 異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導
- え 教師が積極的に個別対応をする学習指導